

4:00 学年集団下校（整列させて、班ごとに下校を確かめる）

4:10 課外活動（金管バンド指導）または会議など

4:45 残務整理 成績処理、テスト・プリント制作、事務処理、分掌の仕事

6:45 退勤（保育園経由）

7:10 帰宅 食事準備

8:10 夕食 入浴 家事 育児

10:00 たより作成、授業準備

12:00 就寝

補足説明

・保育園の送り迎えの関係で、いつも出勤・退勤が同じ時間になる。

・買い物は生協の配達で1週間分をまかない、足りないときは夫に頼む。

・生産的なことを求められる仕事（新しい発想や効果的な指導、工夫を凝らした教具、環境整備、行事の工夫）でありながら、それを生み出す時間が少ない。ゆえに、土曜日に希望保育を頼んで仕事をするか、日曜日に部活や残務の終わった夫に頼んで、残務処

理に学校へ向かう。保育園は本来、土曜日に営業をしている事業所などの従業員のために、子供を預けることが許されているので、教員が土曜日に子供を預けることには、あまり良い顔をされないが、他に手段が思いつかない。

・パソコンでの仕事が増えたことで、かつて印刷屋さんややっていた仕事もそのまま教員の仕事になった感がある。技術が必要とされ、しかも、コンピューターソフトが変わる度に覚え直さなくてはならない。かなりの時間がこれにとられる。

・小規模の学校だが、分掌の数は他の学校と変わらない。ゆえに、職員が少ないため一人が3〜4分掌を抱えており、出張や提出物も多い。今年度は研究授業を引き受けたので、分掌は軽くなるはずであった。しかし、突如わたった地域のプロジェクトで取り組まざるを得なくなった食育が自分の分掌であったため、新しい行事を立ち上げ、日々の残渣処理の当番活動が増えた。

・分掌で、特別支援コーディネーターをしている。まずは自分のクラスの「支援を必要とする子」から……と奮闘しているが、この子らの数が多く、指導に時

間がかかり、2学期までは中休みと昼休みは全くなかった。

・現在の学校は3年目である。今は少ない職員ながら、3年位で転勤など職員の入替わりが激しい。育児休暇の職員も出たため、新しい職員が分らないことは、他分掌でも結局自分がやっているか一緒にやっている状況である。

・分掌毎の研修もあるが、そこで出される「1年間の実践をまとめて」のレポートも苦しいものがある。分掌が多いと、同じ時期に3つ提出ということになる。

最後に

・長年夢だった教員になったので、どんなに大変でも「やめたい」とは思ったことはない。支えてくれる管理職が本当に有難い。健康で家族にも恵まれ、自分も本当に幸せであると感じている。超多忙の上に、悩みがあったら、やっていけないかもしれない。

(M・中越の小規模校の小学校教員)

Bさん(小学校 女性教員 40代)

Bさんは、40代も残りわずかの小学校教師、2児

の母でもある。どちらも高校生で手はかからない。夫は高校教師。実家の近くに住み、実父母は健在で孫の食事、洗濯物など面倒を見てもらっている。従って、学校の仕事に打ち込める環境にある。それに教師が天職と思い、いつも希望してクラス担任をしている。Bさんのある1日は次のよう。

6:00	起床 朝食、弁当作り
7:30	出勤
8:10	職員朝会・朝学習
8:25	学級朝会
8:40	1〜2時間目の授業
10:15	中休み 授業準備・印刷など
10:35	3〜4時間目の授業
12:10	給食指導・学習カードのチェック
1:00	昼休み 授業準備・印刷・提出物のチェック・学習指導・外部との交渉
1:35	清掃指導
2:00	5〜6時間目の授業
4:00	学年集団下校(整列させて、班毎に下校を確かめる)会議・補習

5:30

残務整理 提出物チェック(ノート・テスト・宿題など) 成績処理 授業の準備・授業の打ち合わせ・行事の打ち合わせ・たより作成・事務処理・分掌の仕事

9:00

退勤・買い物(6:30~退勤・買い物)

10:00

帰宅(7:00~帰宅・食事準備)

10:00

入浴(提出物チェック・文書作成)

12:00

就寝

補足説明

・右の(6:30~退勤・買い物)(7:00~帰宅・食事準備)は、希望的な行動で実際はまず不可能。

・空き時間(授業に行かないでよい時間のこと、例えば理科専科教員が理科の授業をする時)は週に4ないし5時間、毎日の提出物を見るだけで終わる。空き時間がないときは、放課後に家庭学習ノート、ノート、テスト、プリントなど見る。

・補習は特に教えないと後れる子に、休み時間や放課後に空いていればできるだけ行う。そうすると退勤時間まで自分の仕事ができないから、退勤時間後の仕事になる。

・パソコン関連の仕事に時間がかかる。思うような操作ができないとき、教えてもらいたい人も忙しく頼みづらい。試行錯誤の操作で疲れるし、時間がかかる。またデジカメで手軽に写真を撮れるようになった反面、写真の管理に手間がかかる。

・報告が多い。アンケート結果の集計、webテスト・全校テスト・単元テストの結果を、パソコンに入力しなければならぬ。

・総合的な学習の時間でも単元開発、計画や外部との連絡、お礼の手紙など、時間と頭脳と労力がある。
・ALT(外国語指導助手)との打ち合わせ(今年度は20回昼休みが無くなる)。

ついやってしまう仕事

総合の時間に稲刈りを地域の人たちの助力を得ながら、子どもたちは喜んでやりました。デジカメで写真を沢山撮り、後で私のパソコンで印刷しました。相当な時間がかかります。地域の人が写っているのを、どうするか？

印刷し、配ることにしました。「ここまでやらなくとも、いいのに」と思いながらも、ついしてしまふ。お

あげたときの笑顔がまた次の仕事の力になるのです。

Bさんの母の話

娘は、教師になりたくてなつたし、端で見ていてその仕事がほんとうに好きでたまらないようです。私たちは幸い近くに住み、健康にも恵まれて手助けできます。孫たちの食事や洗濯物などの面倒を見てやるくらいですが、ただ帰宅時間が余りに遅く、健康を害さなければいいがと心配はしています。たまに部屋へ行つてみるとパソコンで刷つた写真の失敗した紙などがたくさんあつて、仕事の大変さを想像しています。ろくに話す時間も取れないので、孫に「仲が悪いのか」と心配さえされました。

今の先生は大変だと思います。(文責・吉田武雄・所員)

Cさん(中学校 女性教員 40代)

Cさんは、体育の女性教師で学年主任。クラス担任ではなく、数クラスの学年のまとめ役で責任を常にかけています。伴侶は教頭で単身赴任、高校生を頭に中学、小学生と3人の子育てもしています。風邪などに罹るとかなり離れた実家の両親に応援してもらふこと

があります。

スポーツで鍛えた身体と気力で、生意気さかりの中学生と向き合っている日々です。

7:00 起床・朝食準備・弁当作り

8:00 通勤・教室見回り

朝会・打ち合わせ

朝読書・朝学活

9:00 授業以外の空き時間は1ないし2時間。その間、学年会、企画会議、生徒指導部会などの会議。

学習カードチェック

総合学習準備、校務分掌

学年だより(A3裏表、週1回発行)

給食準備・給食指導

1:00 昼休み 委員会打ち合わせ

12:00 部活打ち合わせ

2:00 補習指導、生徒指導、体育館見回り

3:00 授業

4:00 授業

清掃指導・終学活

放課後活動 部活動・生徒指導・補習等
月1回職員会議

(この時間帯は自分の仕事はできない)

6:30 授業準備、分掌の仕事、行事準備

総合学習準備等

8:30 帰宅、夕食、入浴

子どもとの時間 塾迎え

12:00頃 就寝

以下説明を少し。

- ・学級担任は、約40人分の生活ノートを丸々1時間にかけて目を通しコメントを書きます。
- ・この他テスト前にはテスト学習計画表をチェックします。空き時間はそれで終ります。
- ・放課後は部活指導、生徒が退校するまで自分の仕事はできません。(冬で5:30過ぎ、夏で6:50過ぎ)
- ・様々な調査、アンケートが上から降りてきて、その結果がどう返ってくるのかの实感がありませんのでむなしです。web配信テストも教員評価なども同じです。
- ・テスト結果からも少し補習をしたくとも時間がとれません。

・1クラスの人数が減り、学年職員数がプラス1になるだけでも、この忙しさはさばずいぶん減ると思います。

・様々なデータがPC(パソコン)データ管理になっている現在、各学校にPC専任の人を配置するべきです。片手間で出来ることではないし、専任が1人いれば、操作に不慣れな人のトラブルもすぐ解消し、仕事の効率もアップします。

・総合学習を意味あるものになると、その準備は膨大なものになります。

・部活指導がある限り中学教員の忙しさは解消されないかも知れません。専門外でも時間を惜しんで指導していても結果が出ないと、親からクレームがつくこともあります。時間外勤務があたりまえなのもおかしいですし、上、日ほとんど休まず指導している先生方もたくさんいます。

部活の喜びと苦痛

私はスポーツが好きで、大学も体育を専攻しました。得意な球技では中学生にはひけを取りません。指導して大会にいい成績を取ると喜びは言い難いものがあります。

学校の都合では、不得意な部を持たねばならないこともあります。そのときは苦痛です。まして学生時代に選んでもなかつた人は、顧問としても手探りの毎日です。中学生に部活動が大切なのは、よく分かりますが、それにふさわしい手だてが欲しいのです。

(文責・吉田武雄・所員)

Dさん (中学校 男性教員 50代)

Dさんは50代のベテラン理科教師である。今年度(昨年4月)から現在の中学校(全校生徒数約350余人、1〜3年10クラス)に赴任したばかりである。

校務分掌は、3学年副主任・学級担任(病休代理)・進路指導主事・理科主任・学年PTA担当・生徒会専門部の放送部担当・部活(ソフトテニス部)・給食の検食係(週1回)などである。

1週間あたりの持ち時間数は、理科は1年生2クラス、6時間と3年生2クラスの8時間、学活・道徳の各1時間、総合の2時間で計18時間である。
2月末のある1日を記録していただいた。

6:30

起床

7:20	出勤
8:10	職員朝会
8:20	朝読書
8:30	学級朝会
8:45	(1限)学級活動
9:05	授業準備
9:10	(2限)授業(理科)
9:35	実験の後片付け
10:10	(3限、空き時間)後片付けの続き、
10:45	昼の放送の音楽チェック、次の授
11:10	業の準備、入試業務
11:35	(4限)3限からの仕事の続き
12:00	給食
12:12	入試業務
12:20	給食指導
12:35	(昼休み)校内巡視と5限授業の準備
13:00	(5限)授業
13:13	後始末と6限授業の準備
13:35	(6限)授業
14:14	清掃指導
14:25	
15:15	
15:30	
15:45	

15 50 ~ 16 00 終学活

16 00 ~ 17 00 受験対策用の補習や部活動

17 00 生徒下校

17 00 ~ 22 00 教材研究や明日の授業の準備、進路業務、提出物チェック、卒業に向けての準備(文集やDVDづくり)など

帰宅、夕食

22 20

23 30 ~ 1 00 パソコンメールチェックと返信、理科サークルの仕事

〔附記〕：以下は、休日に時間を割いてもらいお聞きしたことやCさんからのメモを纏めたものである。

・校務分掌などの仕事は、量的にも勤務時間内ではとても終えることは出来ず、部活終了後にやらざるを得ない。勤務時間終了は16時40分となっているが、部活の終了時間は、夏場では18時、冬場では17時。休憩時間も校時表には載っているが、実際は無きに等しく、異常な状態が常態化している。

・子育て中の先生は家に持ち帰って仕事をしている。しかし、成績などの資料等は持ち出しができないの

で、大変である。

・進路指導主事として最も忙しいのは10月から11月である。私立高校の入試説明会があったり、県教育委員会から入試要項などが送られてくる。それらの資料から3月までの入試スケジュールを考えたり、先生方用の資料を作成する。そして進路希望調査を行ったり、12月に行われる三者(保護者・生徒・担任)懇談に備えて学年の受験プランを取り纏めたりデータ整理をする。帰宅は夜11時過ぎになることが多い。土曜日にも部活を実施しており、夏場は9:00~12:00。午後は校内で仕事。冬場は外のコートが使えないので、体育館が空いている午前7:30~9:00に部活動を行っている。その後、校内で仕事をし、帰宅は夕方の6時頃になる。

・たまに、20時頃に帰宅すると、家人から「今日は早いな。具合でも悪いの?」と言われたりする。人間性(家族との語らい、読書や趣味など)を磨いたり伸ばしたりする時間を削りながら仕事をしている感じがする。

・これだけ働いているのに、昨年の人事院勧告では、詳しい情報もなく給与が削減された。仕事へのモチ

バージョンは下がるが、やらないと仕事が滞って自分の首を絞めることになる。しかし、何とかこの状況を変えることが出来ないものかと思っている。

(文責・小坂邦男・所員)

Eさん(中学校 男性教員 30代)

5..30 起床
 7..00 出勤
 7..10 学校着
 8..10 始業
 8..15 朝会
 12..10 昼食
 16..00~17..00 卒業事務または会議
 17..00~17..30 休憩
 17..30~18..50 不登校児の指導
 18..50~20..00 残業等
 20..00頃 帰宅
 21..40~21..30 持ち帰り仕事

土日のうち、ほぼ1日は出勤して仕事をします。持ち帰り禁止の情報や資料が学校にあり出勤は不可欠で

す。週案提出や教員評価のノート書き、学校評価部会などはムダ、あるいは雑務と思える。必要とは思えない仕事を県教委は増やしていると思います。子どもたちと話す時間が少なくなっていく気がします。子どもたちの成長を実感するときは充実感を感じます。

Fさん(小学校 男性教員 40代)

7..20 出勤
 7..50 学校着
 8..15 始業
 12..10 給食
 15..45 放課後
 16..45 就業
 18..30 下校
 19..00 帰宅

学校では成績処理や教材の整理等。持ち帰りの仕事はテストの採点や教材研究等。

教えること以外の仕事が多すぎます。授業時間数を減らして放課後の時間にゆとりがほしい。

(文責・河台靖久・所員)